

平成30年7月

## 普及活動報告

### 第3回京都丹波就農サポート講座 ～現地経営研修を開催～

(全域：3日)



キュウリ施設栽培について説明を受ける(園部町)



伏見とうがらしのロックウール栽培等について研修(京丹波町)

今回の講座では、管内の施設キュウリ、黒大豆枝豆、伏見とうがらし、ホウレンソウ、京かんざし(葉つきニンジン)の栽培現地を訪問し、地域特産物の栽培技術や経営上の工夫点、心構えなどについて、訪問先の農家から説明を受けました。

受講生からは「キュウリをコンスタントに収穫する考え方、枝豆栽培や獣害対策が参考になった」「太陽熱消毒やハウス栽培のことがよく分かった」などの感想が聞かれました。

普及センターは、引き続き実践的な農業の基礎技術が習得できるよう支援していきます。

場 所 南丹市園部町南八田  
京丹波町豊田・妙楽寺  
出席者数 31名(普及職員含む)

受講生は21歳～68歳(平均40歳)の30名。南丹管内の実践農場研修生、就農間もない農業者及び障害者就労支援事業所の職員が参加。

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年7月

## 普及活動報告



よもぎ団子の作り方を学ぶ若手農村女性



加工品の外観評価を行う会員

### 売れる加工品づくりを目指して ～南丹地域農村女性・加工研究会が交流会を開催～ (全域：4日)

加工研究会の役員会において「どのグループが何を加工販売しているのか実は分からない」という声があったことから、本交流会が計画されました。当日は、地域に伝わる「よもぎ団子」づくりの研修や、それぞれが製作している加工品の評価会が実施されました。また今回初めて交流の輪を広げるため、会員以外の若手農村女性等にも参加を呼びかけました。普及センターは、農村女性への声かけや評価方法について助言を行いました。

「他の会員の加工品を見て味わうことで、自分たちの加工品の良い点・悪い点が明らかになった」との声がありました。普及センターでは引き続き、農産物加工活動を支援していきます。

場 所 南丹市園部公民館  
出席者数 44名

南丹地域農村女性・加工研究会 H30会員数68名(30年4月現在)

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年7月

## 普及活動報告

### 農業次世代人材投資資金に係る研修会を実施 (亀岡市：17日)



研修会の様子

国の農業次世代人材投資資金は、毎年制度改正が行われるため、何が正しいのか分からないとの声があります。そこで交付を受けた亀岡市の新規就農者を対象に、年2回の提出を義務づけられている就農状況報告作成に係る研修会を実施し、普及センターからは、就農状況報告の変更点及び記載方法のポイントについて説明しました。

参加者からは「新様式の変更点について理解ができた」などの意見が聞かれ、要綱改正に伴う適切な事務手続について理解が進みました。普及センターでは、今後も経営確立指導等を通して、新規就農者を支援していきます。

場 所 亀岡市役所

出席者数 31名

管内の農業次世代人材投資資金交付対象者は67名で、うち、亀岡市は24名。

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年7月

## 普及活動報告

### ～暑さに負けず生産を～京丹波町瑞穂 でハウレンソウ研修会を開催

(京丹波町：20日)



普及センターから栽培管理について説明

普及センターから、梅雨明け以降の高温を踏まえ、ハウス内温度を下げる遮光資材の利用や夏期に発生が多くなる病害への対策として、太陽熱土壤消毒や土壤還元消毒を紹介しました。また熱中症対策の実践を呼び掛けました。

あわせて、以前から野菜等経営安定対策事業について知りたいと要望があったので、京のふるさと産品協会から説明を行いました。

生産者から、「事業の仕組みがよく分かり良かった」「研修の内容を参考に、熱中症に注意して作業を行いたい」などの声が聞かれました。普及センターでは、ハウレンソウの安定生産に向けて、関係機関とともに支援します。

場 所 JA京都瑞穂支店  
出席者数 14名

平成29年度 瑞穂支店ハウレンソウ出荷量19.5トン

京都府南丹農業改良普及センター



平成30年7月

## 普及活動報告

### ～小豆機械化栽培における雑草防除体系現地試験～ ～行程は種機の作業実演会を開催 (亀岡市：25日)



普及センターから実演内容を説明

小豆機械化栽培において難防除雑草である「ホオズキ類」が多発し、生育期の小豆と競合し問題となっています。そこで、農林センターとともに雑草防除や抑制を目的に様々な現地試験を行っており、今回、耕深が浅く作業速度が速い「トリプルエコロジー」による、は種実演会を行いました。

作業を見守った参加者からは、「は種速度が速い」などの感想が聞かれました。

8月21日(火)には同ほ場で、条間に除草剤を散布することができる「万能散布バー」を使用した作業実演を行う予定です。



トリプルエコロジーによる耕うん・施肥・は種同時作業

場 所 馬路町、河原林町  
出席者数 40名

亀岡市の小豆機械化栽培面積は約50ha

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年7月

## 普及活動報告

### ～黒大豆の安定生産に向けて～ 黒大豆の摘心等に係る研修会を開催

(全域：25・27日)



研修会(摘心実演会)の様子

倒伏防止等の効果が期待できる黒大豆の摘心について、より多くの生産者に実践いただくために、摘心方法の講演や実演を行いました。また、本年の気象の推移や今後の管理のポイントであるかん水及び実証試験の内容についても説明しました。

「摘心の効果的なタイミングは」など摘心に興味を持っていただいたことに加え、本年の高温・小雨の気象から、かん水や実証試験結果について多数の積極的な質問がありました。今後も普及センターは、生産者の技術支援と黒大豆栽培面積拡大に向けた啓発を行っていきます。

場	所	25日	JA京都和知支店 JA京都亀岡中部支店
		27日	JA京都園部黒田支店
出席者数			58名

H29年 黒大豆栽培面積103ha

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年7月

## 普及活動報告

### 第1回京都丹波有機農業サロンを開催 ～野菜、米の先進農家を視察～

(全域：27日)



先進農家のほ場を見学



室内で意見交換会

管内の有機農業を実践されている方や今後実践したい方が参加し、八幡市で有機JAS認証を取得されている生産者と稲作を独自の方法で有機栽培されている生産者の視察を行いました。現地では、土づくりや栽培技術、病虫害対策、雑草対策、販路等について説明を受けた後、室内で意見交換を行いました。

参加者からは「説明が具体的で参考になった」「自分が考えた事も無いやり方での栽培だったので参考になった」との意見がありました。

次回の有機農業サロンでは、情報交換会、交流会を行う予定です。

場 所 かみむら農園、京都辻農園  
八幡市文化センター

出席者数 34名

京都丹波有機農業サロンには南丹管内の有機農業実践者、志向者及び研修生が参加している。2回/年の開催。

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年7月

## 普及活動報告

### 第4回京都丹波就農サポート講座を開催 (全域：31日)



今回は、秋冬野菜（露地・施設栽培）及び病虫害防除について説明しました。

受講生からは「実物を見ながらのマルチの効果や張り方についての解説が分かりやすかった」「各作物の播種時期などを教えてほしい」「コンパニオンプランツの具体的な栽培方法を知りたい」等、今後の各自の取組への強い意欲が感じられました。

普及センターは引き続き、現地視察や実習等を含め、講座により自立した営農ができるように支援を継続してまいります。



場 所 園部総合庁舎  
出席者数 33名

受講生は21歳～68歳（平均40歳）の30名。南丹管内の実践農場研修生、就農間もない農業者及び障害者就労支援事業所の職員が参加。

京都府南丹農業改良普及センター